

P1 株主のみなさまへ

P4 工事実績のご紹介

P5 財務情報

P7 上半期トピックス

P9 技術のご紹介





代表取締役社長

今井 雅則

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当上半期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)の決算概要とともに、経営課題と取り組みにつきまして、今後の方向性も踏まえてご報告いたします。

当上半期の概況

当上半期の国内景気は、政府の経済政策や日銀の金融緩和等を背景に、個人消費や企業収益が改善するなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。建設業界においては、震災復興、消費増税前の駆け込み需要等により、官公庁工事、民間工事とも大幅に増加しました。一方では、資材価格の高騰、労務不足等の深刻化が懸念されるなど、全体としては厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中、当上半期における当社グループの業績は、連結売上高は、前年同期と同水準で推移し、前年同期比2.1%減の2,083億円となりました。営業損益については、建設事業について前期に採算重視の受注方針への転換を行ったことや慎重な工事収益の見積りを実施したことにより完成工事総利益率が向上した結果、営業利益は58億円(前年同期は144億円の営業損失)となりました。また、特別利益において投資有価証券の保有状況を見直し、売却を進めたことにより、投資有価証券売却益41億円を計上した結果、四半期純利益は111億円(前年同期は338億円の四半期純損失)となりました。

課題と取り組み

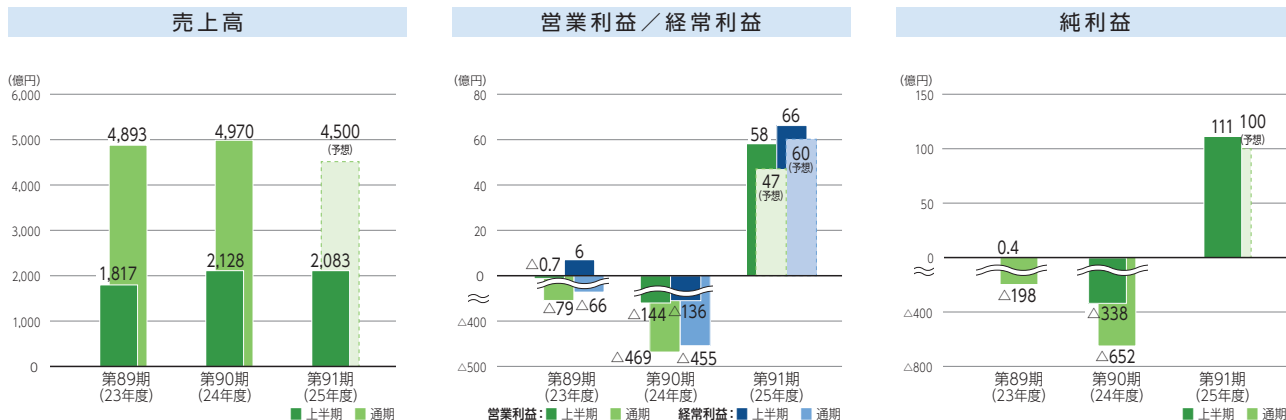
前期、前々期と当期純損失を計上したことを踏まえ、当社では期初より4つの収益改善施策に取り組んでおります。

まず「選択受注の徹底」につきましては、医療福祉施設、事務所、道路工事などの重点分野を中心に営業活動を展開し、且つ各案件に対して、企画、設計等、川上工程からのつくり込みを徹底しております。「受注管理体制の強化」につきましては、案件の決裁基準や会議体等、営業～受注～予算策定に至る決裁フローを見直し、より適時に判断と検証のサイクルが回るように体制を強化いたしました。結果、当期は受注時利益率が改善するなどの成果があらわれております。

「工事採算の管理」につきましては、各工事の収益を保守的に見積もるとともに、その到達状況についてモニタリングを徹底しております。また、「一般管理費の削減」につきましては、概ね計画通り推移しており、通期につきましては185億円(個別)と、前期より約16億円の削減となることを予測しております。

これらの施策効果により、今般、通期の営業利益を期初予測の33億円から47億円へと、14億円の上方修正を実施いたしました。

財務ハイライト(連結)



今後の方向性

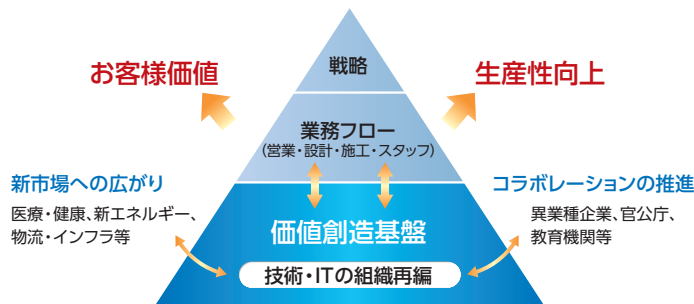
当期の建設受注高(個別)は、通期予測の4,150億円に対して、上半期を終えた時点で3,176億円と76.5%の達成率となっております。また、当期最大の目標である「黒字化必達」につきましても、一定の目途が付きつつあると認識しております。こうした業績状況を踏まえ、下半期につきましては、前述の収益改善施策を継続するとともに、次期以降に向けた「収益力再生」への取り組みに軸足を移してまいります。

その中でも最重点テーマとして掲げているのが「価値創造への取り組み」です。当社が他社と差別化され、お客様に選んでいただける存在となるためには、業務フローを支える“価値創造基盤”を強化していく必要があります。技術やITに関する体系を見直し、新たな価値を生み出し、営業や施工の最前線を通じてお客様へと有機的に繋がっていく体制の整備を、当期中に目途をつけ、

次期より実行へと移行していきたいと考えております。

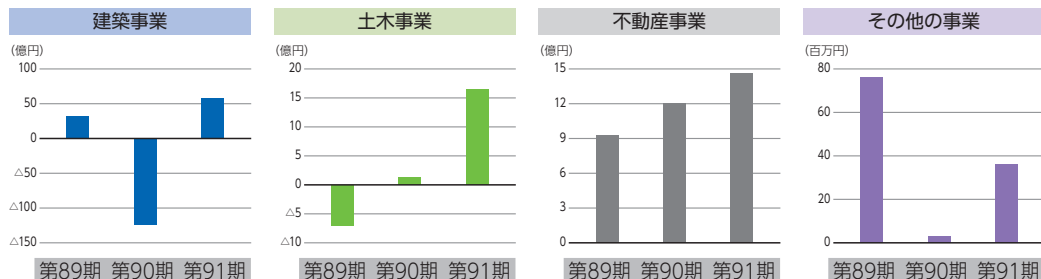
「価値ある戸田建設」の実現に向けて、全役職員がマインドリセットし、取り組んでまいり所存でございます。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社独自の価値創造に向けた体制を再整備



セグメントの概況

上半期営業利益 (セグメント利益)



	第89期	第90期	第91期	第89期	第90期	第91期	第89期	第90期	第91期	第89期	第90期	第91期
上半期売上高(億円)	1,483	1,705	1,578	292	368	437	57	73	82	6.9	6.7	5.9
利益率(%)	2.2	△7.3	3.7	△2.4	0.4	3.8	16.1	16.5	17.7	11.0	0.5	6.2

売上高構成比



※売上高にはセグメント間売上高を含む

工事实績のご紹介

当上半期の完成・受注工事

当社では、機能性や品質に優れ、安心・安全で、環境に配慮した建設物を実現することで、建設業としての企業の社会的責任を果たしています。当上半期における主な完成・受注工事をご紹介します。

新多治見市民病院詳細設計付き建設工事



工事名称 新多治見市民病院詳細設計付き建設工事
工事場所 岐阜県
発注者 多治見市
竣工月 平成25年4月
工事概要 RC造 地上7階 地下1階 塔屋1階
床面積 19,698.13m²
ベッド数 258床
用途 病院

仙台湾南部海岸中浜工区坂元地区第1復旧工事



工事名称 仙台湾南部海岸中浜工区坂元地区第1復旧工事
工事場所 宮城県
発注者 東北地方整備局
竣工月 平成25年8月
工事概要 築堤 L=830m
(盛土 V=53,700m³、被覆ブロック2t・4t N=6,343個)
消波 L=367m
(消波ブロック6t N=2,744個)
用途 海岸堤防

当上半期における主な完成工事

- ・近畿地方整備局 京都国立博物館平常展示館建築工事
- ・東急不動産(株) (仮称)東急ハーヴェストクラブ熱海新築工事
- ・雪印メグミルク(株) 乳製品統合工場建設工事 一式
- ・北戸田駅東1街区市街地再開発組合
北戸田駅東1街区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事
- ・北海道厚生農業協同組合連合会 札幌厚生病院増改修工事
- ・環境省地球環境局
平成24年度浮体式洋上風力発電実証事業委託業務
- ・独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北海道新幹線建設局
北海道新幹線、万太郎路盤他

当上半期における主な受注工事

- ・三菱地所(株) 他
(仮称)大手町一丁目第3地区第一種市街地再開発事業新築工事
- ・広島駅南口Cブロック市街地再開発組合
広島駅南口Cブロック第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事
- ・国家公務員共済組合連合会
(仮称)高齢者総合サポートセンター・九段坂病院合築整備工事
- ・日本赤十字社 鳥取赤十字病院新病棟等増改築工事
- ・独立行政法人 都市再生機構
平成24年度織笠地区・山田地区整地工事(JM)
- ・日本下水道事業団 札幌市東雁来雨水ポンプ場建設工事

連結損益計算書のポイント

(単位:億円)

	前上半期		当上半期	
	金額	利益率 (%)	金額	利益率 (%)
建設	2,059		2,004	
不動産等	68		79	
売上高計	2,128		2,083	
建設	△ 47	△ 2.3	136	6.8
不動産等	16	23.3	19	24.5
売上総利益計	△ 31	△ 1.5	156	7.5
販売費及び一般管理費	112		97	
営業利益	△ 144	△ 6.8	58	2.8
営業外収支	8		7	
経常利益	△ 136	△ 6.4	66	3.2
特別損益	△ 31		46	
税金等調整前四半期純利益	△ 167		112	
法人税等	170		1	
四半期純利益	△ 338	△ 15.9	111	5.3

Point 1

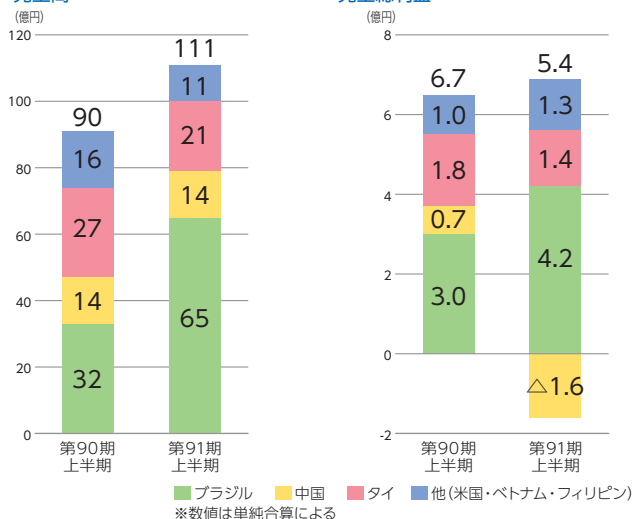
工事採算の改善と資産売却による特別利益の発生

主要事業の建設事業では、前上半期と比較して完成工事高は2.7%減少しましたが、前期に採算重視の受注方針への転換や慎重な工事収益の見積りを行ったことにより、完成工事利益率が向上した結果、当上半期では156億円の売上総利益となり、営業利益は58億円となりました。

また、投資有価証券の保有状況を見直し、売却を進めたことにより、投資有価証券売却益を41億円計上した結果、当上半期は111億円の四半期純利益となりました。

海外現地法人の業績

売上高



売上総利益

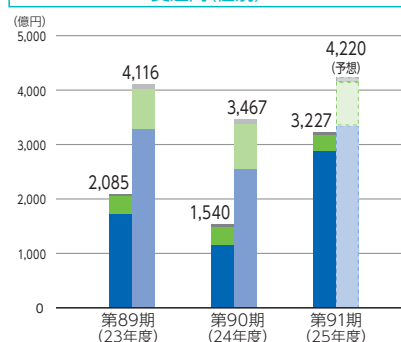


Point 2

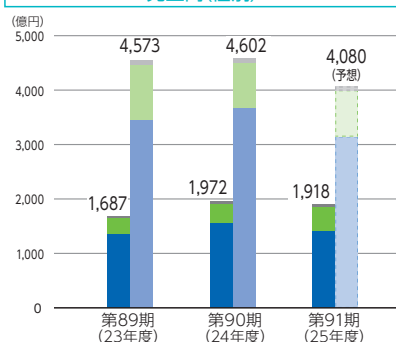
海外現地法人の業績

当上半期における海外事業の実績は、アジア圏における売上高が減少したものの、ブラジル現地法人の売上高が増加したことにより、売上高合計は111億円(前上半期比23.0%増)、売上総利益は中国現地法人の不採算工事の影響を受け5.4億円(前上半期比19.8%減)となりました。

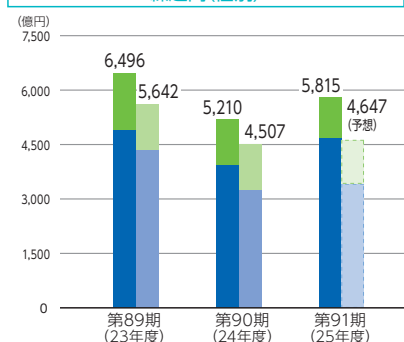
受注高(個別)



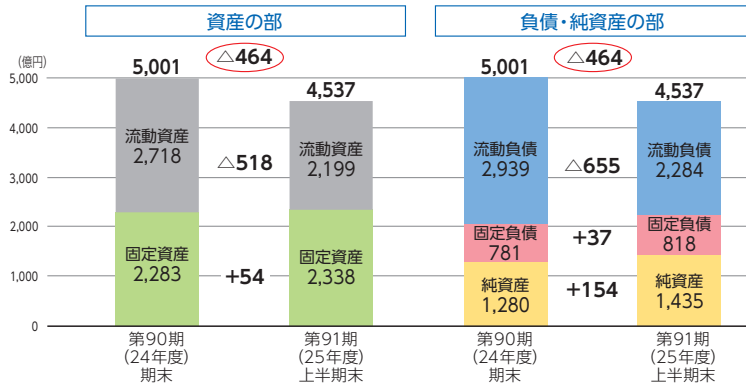
売上高(個別)



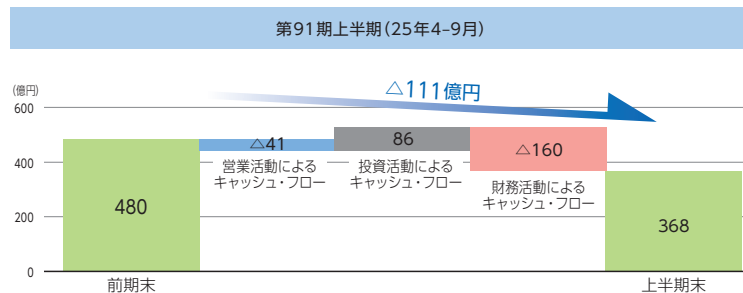
繰越高(個別)



連結貸借対照表のポイント



連結キャッシュ・フローのポイント



Point 3

資産の状況

未成工事支出金が72億円、投資有価証券が58億円増加したものの、受取手形・完成工事未収入金等が462億円、有価証券(譲渡性預金)が69億円減少したことなどにより、当上半期における総資産額は4,537億円(前期末は5,001億円)となりました。

Point 4

負債の状況

預り金が47億円増加したものの、支払手形・工事未払金等が454億円、コマーシャル・ペーパーが110億円、工事損失引当金が75億円減少したことなどにより、当上半期における負債総額は3,102億円(前期末は3,721億円)となりました。

Point 5

純資産の状況

当上半期における四半期純利益111億円、その他有価証券評価差額金が62億円増加したことなどにより、純資産は1,435億円となり、自己資本比率は30.8%(前期末は24.7%)となりました。

Point 6

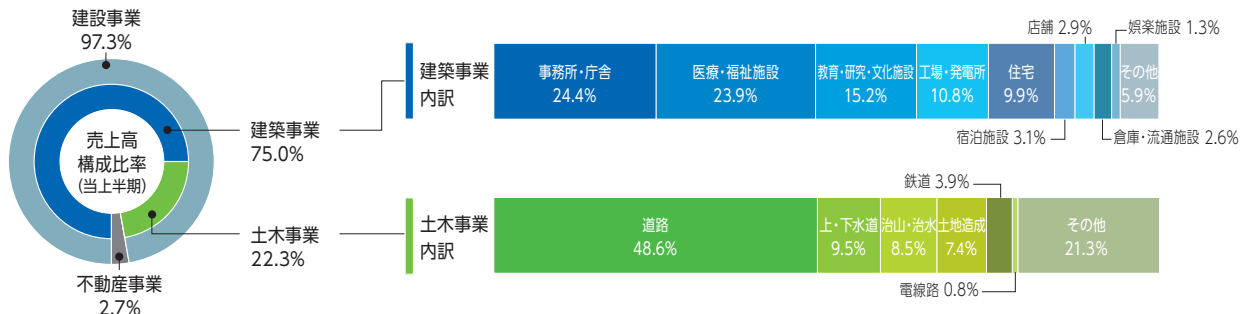
連結キャッシュ・フローの状況

税金等調整前四半期純利益が112億円となりましたが、工事収支が62億円支出超となったことなどにより、営業活動としては41億円の資金減少となりました。

また、投資活動としては投資有価証券の売却及び償還により97億円の資金が増加したことなどにより、86億円の資金増加となり、財務活動としてはコマーシャル・ペーパーの償還や借入金の返済137億円などにより、160億円の資金減少となりました。

この結果、当上半期末における現金及び現金同等物は、前期末と比較して111億円減少し、368億円となりました。

事業種類別 売上高構成比率(個別)



上半期 トピックス

4月

土壌・地下水浄化工法「デクロパワー工法」を開発

当社は、トリクロロエチレンなどのVOC（揮発性有機化合物）で汚染された土壌・地下水を短期間で浄化するデクロパワー工法を開発し、実際の汚染現場に適用し効果を確認しました。

このデクロパワー工法は、栄養剤（デクロパワー剤）を汚染された土壌・地下水中に注入することにより、土壌中の微生物を活性化させ、VOCが分解しやすい地中環境を構築し、短期間でVOCによる汚染土壌・地下水を浄化する技術です。

今後は、自社開発によって蓄積したノウハウと低コストの強みを生かして、操業中の工場などの土壌・地下水汚染対策工事に対して積極的に提案していく予定です。



6月

「戸田建設 コーポレートレポート2013」を発行

当社は、2012年度の財務報告とCSR（企業の社会的責任）に関する活動実績などを取りまとめた「戸田建設 コーポレートレポート2013」を発行しました。今年から財務報告とCSR報告を統合し、ステークホルダーの皆さまに分かりやすい構成に配慮しています。

本レポートを会社案内、ウェブサイトなどとともに、ステークホルダーの皆さまとの重要なコミュニケーションツールのひとつに位置づけ、さらなる充実にも努めてまいります。



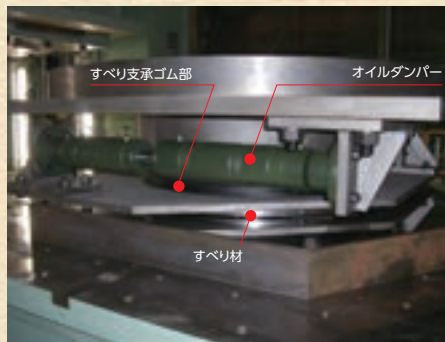
「オイルダンパー付き弾性すべり支承」が大臣認定を取得

当社と西松建設（株）、昭和電線デバイステクノロジー（株）、カヤバシステムマシナリー（株）は、微振動や風・小地震による小振幅にも対応する新しい免震装置として、「オイルダンパー付き弾性すべり支承」を開発し、2013年6月10日に国土交通省の大臣認定を取得しました。

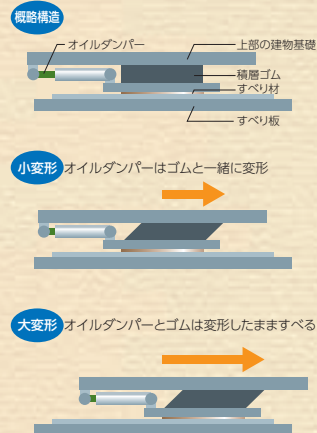
弾性すべり支承を用いた免震構法には、今まで多くの実績があり、高い性能とローコスト化を実現してきましたが、建物の用途によってはその適用が困難でした。この新しい免震装置を用いることにより、微振動を嫌う生産施設や、居住性能の向上を要求する住宅・病院など様々な用途の建物への適用が可能となります。

今後は、微振動領域や小振幅領域から大地震まで高い免震性能を発揮して多様なニーズに応える、「オイルダンパー付き弾性すべり支承」を、様々な用途の建物に幅広く展開していく計画です。

●実大静的試験体写真



●概念図



放射性廃棄物データ管理システム「TOMIC」を開発

当社は、放射性廃棄物データ管理システム「TOMIC(トミック)」を開発しました。昨年開発したTOMコンテナ(移動式放射性廃棄物用PC製格納容器)にRFIDタグ*を埋め込み、データ管理に必要な情報をコンクリート外部から読み取れるようにしました。放射性廃棄物収納後にデータ入力できますので、ニーズに合わせて管理項目を選択することが可能です。従来よりも放射性廃棄物管理における作業時間が低減し、かつ仮置き場など移動先での照合確認が容易となります。今後、放射性廃棄物を管理する自治体を中心に積極的に提案していく考えです。



用語 ▶ RFIDタグ

微小な無線ICチップ。情報を記録でき、電波や電磁波で読み取り器と通信し、管理システムと情報を送受信することができる。

設計基準強度(Fc) 200N/mm²の現場打込み超高強度コンクリートの打込みを完了

当社は、設計基準強度(Fc) 200N/mm²の超高強度コンクリートを用いた超高強度RC柱を都内の超高層集合住宅に初適用し、超高強度コンクリートの打込みを完了しました。

▶▶ 詳しくはP.9(技術のご紹介)をご覧ください。



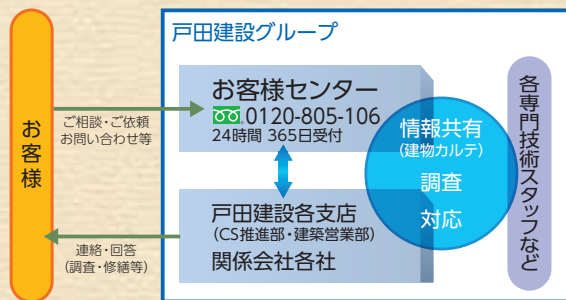
お客様センターを開設

当社は、平成25年10月1日より本社建築本部内に「お客様センター」を開設することを公表しました。

当社では、中長期経営ビジョンに掲げる「施設まるごと」を実現するべく、組織・業務改革に取り組んでいます。「施設まるごと」とは、建設ライフサイクルを通じてお客様をご支援し、このことを通じて継続的な信頼関係を確立していくという、当社独自の考え方です。

このビジョンの実現に向けた取り組みを加速するべく「お客様センター」を開設し、当社施工物件におけるアフターケア(建物維持管理、リニューアル等)をワンストップで受け付ける体制を確立します。

お客様第一の考え方に立ち、様々なご要望に対しより早くて確かな対応を行っていただくことで、更なるご満足を提供していきたいと考えています。



超高層建物をトータルサポートする戸田建設の技術

当社は超高層建物の建設を目的に、様々な技術開発を行っています。
当社が提供する超高層建物関連技術の一部をご紹介します。



国内初、設計基準強度 (Fc) 200N/mm²の超高強度コンクリートを現場打設

都内超高層集合住宅の1階柱に初適用

当社はこれまで、RC建造物の更なる高層化や設計プランの自由度向上など、お客様の要望に応えるため、Fc200N/mm²の超高強度コンクリートの研究開発を進めてきました。

Fc200N/mm²の超高強度コンクリートは低層建物や地下部分に採用された例はありますが、地震時に大きな力の作用する超高層建物の地上部分に適用された例はなく、本格的な現場打込みのコンクリートとしては国内初の施工物件となります。

この物件は、東京都新宿区に建設中の西富久地区第一種市街地再開発事業の高層棟で、地下2階・地上55階建て、最高高さ約180mのRC造です。骨組は、フレキシブルな住空間を実現するため、スパンの大きな住戸ゾーンを大型床スラブで支持しています。そのため、1本の柱で負担する荷重が大きくなるので、1階では、最大でFc200N/mm²の超高強度コンクリートを採用しています。

今回の実施工により、超高層RC造に向けた日本最高強度の施工技術を確認しました。首都圏で今後数多く予想される超高層RC集合住宅を中心とした開発事業の新たな施工技術として、今後は受注拡大に向けて積極的に提案していきます。



強度を高め、柱面積をコンパクトに



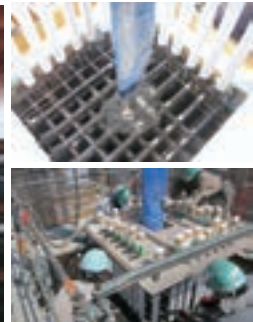
フレキシブルな
住空間の実現例



西富久地区第一種市街地
再開発事業完成パース



柱打込み状況



柱・梁接合部打込み状況

■ 会社概要

(平成25年9月30日現在)

● 主な事業所等

本店(東京都中央区京橋一丁目7番1号)

支店

- ・東京支店(東京都中央区)・千葉支店(千葉市)
- ・関東支店(さいたま市)・横浜支店(横浜市)・大阪支店(大阪市)
- ・名古屋支店(名古屋市)・札幌支店(札幌市)・東北支店(仙台市)
- ・広島支店(広島市)・四国支店(高松市)・九州支店(福岡市)
- ・国際支店(東京都中央区)

技術研究所(つくば市)

子会社

- ・戸田リフォーム(東京)
- ・アペックエンジニアリング(埼玉)
- ・千代田建工(東京)
- ・戸田道路(東京)
- ・千代田土地建物(東京)
- ・戸田ファイナンス(東京)
- ・東和観光開発(広島)
- ・千代田スタッフサービス(東京)
- ・戸田アメリカ
- ・戸田ブラジル
- ・戸田上海
- ・タイ戸田
- ・戸田ベトナム
- ・戸田フィリピン
- ・ABTD(フィリピン)

● 従業員の状況

従業員数 5,055名(連結) 4,005名(個別)

● 取締役および監査役

代表取締役社長	今井 雅則	常勤監査役	戸田 守道
代表取締役	野村 昇	常勤監査役	野々口 悦生
代表取締役	鞠谷 祐士	監査役	鍛冶 良明
代表取締役	宮崎 泰	監査役	鈴木 勝利
取締役	戸田 秀茂	監査役	秋 草 史幸
取締役	早川 誠		
取締役	山木 昇		
取締役	西澤 豊		

- (注) 1: 監査役鍛冶良明氏、鈴木勝利氏および秋草史幸氏は、社外監査役であります。
2: 監査役鍛冶良明氏は東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

■ 株式の状況

(平成25年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 13,172名
- 大株主

株主名	持株数(千株)
大一殖産株式会社	36,400
戸田順之助	31,022
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント アメリカンクライアント	23,923
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,496
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,895
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	9,723
戸田守二	9,607
ビービーエイチ ボストン カस्टディアン フォー ブラックロック グローバル アロケーション ファンド インク 620313	7,902
株式会社みずほ銀行	7,107
三宅良彦	7,087

- (注) 1: 上記のほか当社所有の自己株式11,451千株があります。
2: 戸田順之助氏は平成25年10月9日に逝去されました。また戸田守二氏は平成25年6月12日に逝去されましたが、相続手続中のため平成25年9月30日現在の株主名簿上の名義で記載しております。

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toda.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

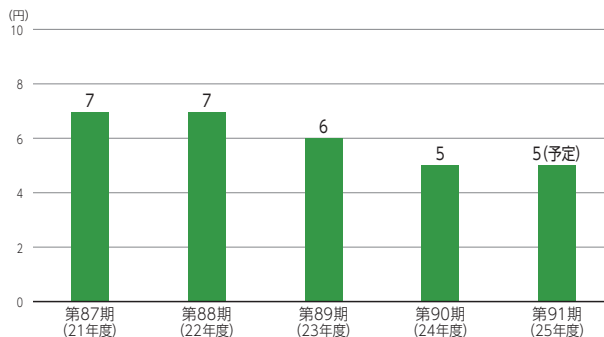
株主還元について

利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様への継続的な安定配当の実施と、競争力および財務体質の強化に不可欠な内部留保の確保を勘案の上、業績および経営環境に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。

当期の1株当たりの年間配当金につきましては、上記の方針を踏まえて、5円とすることを予定しております。

1株当たり配当金推移



株主優待制度のご案内

当社では毎年9月末時点の株主名簿に記載または記録された1単位(1,000株)以上保有の株主様を対象に、株主優待を実施しています。

■ 優待内容

当社グループが保有・運営する「ホテル&リゾート サンシャイン サザンセト」(山口県大島郡周防大島町)の株主優待券を贈呈いたします。

割引率

平日(日曜日~木曜日)	正規の宿泊料金より30%割引
休前日(金曜日・土曜日・祝前日)	正規の宿泊料金より20%割引

※ キャンペーン商品は対象外

発行基準

所有株式数1,000株以上5,000株未満	2枚
所有株式数5,000株以上	4枚



■ ご利用方法

- ご予約の際に優待券面に記載された番号をご連絡ください。
- 株主優待券1枚につき1回あたり1室のご利用ができます。
- 本制度の対象となる客室は1日あたり5室までといたします。

戸田建設株式会社

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号
TEL.(03) 3535-1357
<http://www.toda.co.jp/>

戸田建設

検索



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用しています。